



ACCELL/SQL からUnifyVISION Release2へのコンバージョン(C-Hooks)

ACCELL/SQL インストールディレクトリ

/home/ASQL

UnifyVISION Release2インストールディレクトリ

/home/VISION2

1. UnifyVISIONユーザ関数(C-Hooks)の相違点

ACCELL/IDSからのコンバージョンの場合には、“ACCELL/IDSからACCELL/SQLへのコンバージョン(C-Hooks)”の“1. ACCELLユーザ関数(C-Hooks)の相違点”を参照のこと。ACCELL/SQLとUnifyVISIONは同一仕様。

ただし、インクルードしている`chookincl.h`を`chookinc.h`に変更すること。

2. カスタムマネージャの再リンク

Step1 ユーザ関数の変更

上記の対応表をもとに該当箇所をACCELL/SQL(VISION)のコードに置き換える。

Step2 UnifyVISIONカスタムマネージャの再リンク

通常の方法でカスタムマネージャを再リンクする。

例えば、`namechk.c`というファイルをコンパイルし、カスタムマネージャにリンクするには、以下のようにする。リンク前にはHDATYPEを設定する必要がある。PATHの設定やデータベース固有の設定(例えばORACLE_HOMEなど)もしておく必要がある。

```
$ cc -c -I$UNIFY/.. namechk.c
$ cc -c -I$UNIFY/.. chooktb.c

$ HDATYPE="U2000 ORACLE"; export HDATYPE
$ vision.ld custvisn namechk.o chooktb.o
```

メモリを大量に消費するため、失敗した場合には、以下のようにswapを追加して再度行う。

Solaris2.xの例

```
# mkfile 30M /export/home0/swap
# swap -a /export/home0/swap
```